平成３０年度 第２回 佐倉市立美術館運営協議会

議事録

日　時：平成３１年２月１６日（土）　１４：００～１６：００

場　所：佐倉市立美術館　４階会議室

出席者：以下のとおり

（委　員　１０名）
　大久保委員、齊藤委員、田中委員、豊田委員、長澤委員、
　樋田委員（会長）、広本委員、真木委員、安本委員、吉村委員
（美術館職員　５名）
　宍戸館長、本橋副主幹（学芸員）、永山主査（学芸員）、
　木邨主査（学芸員）、黒川学芸員、

会議次第
１．開　　会
２．あいさつ
３．報告事項
（１）平成３０年度事業報告について（公開）
（２）平成３１年度事業計画について（公開）
４．協議事項
（１）作品の受け入れについて（非公開）
５．その他
６．閉　　会

【２．あいさつ】
＜館長よりあいさつ＞

【３．報告事項】

（１）平成３０年度事業報告について（資料４～５頁）
＜事務局より説明＞

（会長）
　平成３０年度事業について、報告していただきましたが、何かご意見はございますか？
（会長）
　特に無いようでしたら、先へ進みます。何かございましたら、後でも構いませんので、お知らせください。

（２）平成３１年度事業について（資料６～７頁）
＜事務局より説明＞

（会長）
　平成３１年度事業の予定について、何かご意見はございますか？
（委員）
　「収蔵作品展３」については、平成３１年度が終了した後も継続して開催されるということですね。今までは年度で区切られていたと思われますが、この展覧会はいつまで開催される予定ですか？
（美術館）
　５月中旬頃を予定しております。
（会長）
　そういえば、展覧会の年度またぎについては、何か進展があったのでしょうか？
（美術館）
　収蔵作品展に関しては、少しずつ前向きに考えていければと考えております。ただ、企画展に関しては、もう少し慎重に議論を重ねる必要があるかと思われます。

（委員）
「ミテ・ハナソウ展２０１９（仮）」については平成２５年度以降、意欲的な取り組みをされてきたと思います。この企画展について「多様な対話を紡ぎだす可能性を持った作品を選び」とありますが、２５年度から続けてこられて感じておられる課題であるとか、映像とはどのような作品なのか教えていただけるとありがたいです。
（美術館）
２０１５、１６年は収蔵作品の中から対話がしやすい作品を選んで開催し、２０１７年は柴宮忠徳展の一部として開催しました。２０１８年は、１階のエントランスホールで、夏休み企画として「ミテ・ハナソウ・ルーム」という形で行いました。これまでの「ミテ・ハナソウ展」の「研究の間」の要素を引き継ぎながら、樋田委員のおられる庭園美術館のウェルカムルームなどを参考にしたものです。２０１９年度についてはボランティアの方々の成長なども考えて、現代美術に挑戦することにいたしました。具体的には既に交渉している平面の作家とのバリエーションを考慮し、映像の作家を選びました。
（会長）
補足資料（資料８～９頁）について、少し説明していただけますか？
（美術館）
「女子美術大学展（佐藤志津）」と「矢部又吉展」については、佐倉市ゆかりの人物を取り上げている展覧会であり、「秋山庄太郎展」については、秋山の父が千葉県鋸南町出身という関係性からです。公立美術館として地元に根差しながら展開していこうと考えておりますが、観覧料等の歳入としてはなかなか苦戦しております。
（会長）
動員数には苦戦しているとのことですが、３つとも良い企画展だと思います。昨年度の協議会で「短い期間で女子美術大学展の準備は間に合いますか？」と意見したのを思い出しますが、きちんとやりきりましたし、「矢部又吉展」については、ドイツ建築というこの美術館において新しい分野を開拓しました。私も拝見しましたが、素晴らしい展覧会でした。「秋山庄太郎展」は先程拝見しました。世代のせいかもしれませんが、とても懐かしく拝見しました。
（委員）
数字というのは客観性があっても、あくまで量の世界の問題です。この３つの企画展は数字には代えられない大変貴重な意味を持つと思われます。何よりも学芸員が自ら調査研究し、それに基づいて新たな発見を提示したことです。美術館の展覧会の見本のような素晴らしい展覧会だったと思います。ですか

ら、これらの展覧会に何らかの指数を付けるとするなら、展覧会の完成度１０を付けて差し上げたいと思います。
（委員）
　どこの美術館も企画力が無くなり、買い取りの展覧会が増えている中、この美術館が独自の企画展をなさっているのは素晴らしいことです。決して大きな規模ではないのに、ものすごく忙しい思いをされているのではないかと思われます。お金を払って人が入る展覧会を持ってくれば、動員数も上がるのですが、それだけが文化活動ではありませんので、ふんばっておられるのは頭が下がります。
（委員）
　定量的な評価というのは必ずついてきますが、重要なのは中身だと思います。女子美展が１，９７０人、矢部又吉展が１，７４９人、これらはこれを観たいと思って来た方々ですね。これらの方々からいただいたアンケートを見ると、皆さんかなり満足しておられるのではないかと思われます。実際にそのようなアンケート調査は行っておられますか？
（美術館）
　アンケート調査について、「矢部又吉展」では「とても良かった」が６４％、「良かった」が２７％でした。展覧会をご覧になった方の約９０％が「良かった」と答えて下さっています。
（委員）
　補足資料の追加として、そういった数字を掲載して下さると良いですね。
（美術館）
　はい。
（委員）
　予算をつける方は、歳入等の数字を重視するのでしょうね。この美術館は各企画展に大きな精力を費やしているように思われます。この美術館の学芸員の人数を考えると、企画展３本と収蔵作品３本というのは、非常に大変かと思います。多分休む暇がないのではないでしょうか？館長から「職員がこんな風にやっている」とアピールなさったら如何でしょうか。
（委員）
　「矢部又吉展」については専門性が高く、私はさっと観ただけでしたが、四街道在住の建築に詳しい知人に勧めておきました。後日、その知人に感想を聞いたところ、非常に興味深く拝見したと返事がありました。手書きの設計図等、大変懐かしく、よく案内してくれたと感謝されました。このように専門的な知識を持った人には大変興味深いものだったと思われますが、如何にその人々に展覧会情報を提供するかということが課題であるのかなと思います。

（委員）
「矢部又吉展」についてはタイトルの最初に「知られざる」と入っているのですが、まずマイナスなのですよね。「日本初の」とか、前向きな言葉を選択することが好ましいのではないでしょうか。ですから、来年度に予定されている「メスキータ展」の「知られざる版画家」は再考されては如何でしょうか。
（委員）
昨年、佐倉美術協会は７０周年を迎えたのですが、毎年５月末に開催する展覧会に合わせて美術協会の歴史をテーマとした収蔵作品展を開催してくださいました。タイムリーでしたし、非常に良かったと思います。
（委員）
先程のアンケート調査について、「県外」と「市内」等の対比はどのようになっていますか？人数的には少ないけれど、本当に見たかった方々の比率を知りたいのです。
（美術館）
「矢部又吉展」のアンケート調査からお答えいたします。まず「佐倉市内」４２％、「千葉県内」２７％、「東京都内」１８％、でした。約７割の方が千葉県内から来館されています。
（委員）
前にホームページ等、インターネットでも広報活動をなさると仰っていましたが、それに関しては如何でしょうか。
（美術館）
ハッシュタグをつけてＳＮＳに投稿すると割引になるなど実施しましたが、今回についてはどのような効果だったか分かりかねるところがあります。
（委員）
実は先日、インターネットで知った八王子市夢美術館に行ったのですが、トイレに行く途中の通路に各美術館のポスターが貼ってありました。この美術館は４階にチラシが貼ってありますが、なかなか４階までは上がって来ないかなと思います。また、地元の子供たちに投票させて出品作品に順位をつけるなど、実施されていましたね。それぞれの美術館が色々な努力をしておられるのだなと感じました。
（委員）
「学校連携事業」は資料７頁を見ると大体わかるのですが、「教育普及事業」とはどう違うのですか？

（美術館）
　連携しています。ボランティアの方の育成やミュージアム・コンサート等に使われているのが「教育普及事業」の予算です。バスの費用が「学校連携事業」の予算となります。
（委員）
　バスの費用とは、どのような移動に使われるのですか？
（美術館）
　生徒が学校から美術館に移動する際、バスを使っています。
（委員）
　アンケート調査については、実習生とか、美術館の外の人に手伝っていただくと、良いかもしれませんね。
（会長）
　委員の皆さんから展覧会の意義等について色々なご意見をいただきました。それらをふまえ、より良い運営を目指してください。
（美術館）
　はい。